

免疫細胞療法

研究フォーラム

がん対象



グランソール奈良で免疫細胞療法に取り組む研究者ら

がんを対象にした免疫細胞療法の研究に取り組む「グランソール免疫研究所」(奈良県宇陀市)が8月2、3

の両日、国内外の同僚の専門家12人を集めた研究フォーラムを同

市内で開催する。同研究所は「第四のがん治療法」として注目される免疫細胞療法の中でも、特に効果が高いとされる「γδ(ガンマデルタ)型T細胞」の活用を特色とし、提携医療機関の拡大を目指している。

免疫システムの中心的な役割を担う免疫細胞にリンパ球などがある。同研究所の免疫細胞療法は、リンパ球の成分のうち、がん細胞を排除する作用が特に

強い「γδ型T細胞」に着目。患者の血液を採取して同細胞を培養し、点滴で体内に戻す方法で治療している。宇陀市にある同研究所の研究施設「グランソール奈良」は05年の設立以降、約300人の患者を同療法で治療

し、約半数について好転が現状維持の治療実績を得たという。このうち、がん消失者が3人、がんの大きさが半減した人が約20%いるという。4人の研究者

(医師)が毎月、数十人を治療している。フォーラムは同施設であり「腫瘍免疫学に

おける研究成果とがん治療への応用」がテーマ。

来月2、3日 専門家12人集め奈良・宇陀で